

# 1

## 【感謝と喜びを】

G C D7 G Am D7 G  
 感謝と喜びを 今 主の前に 今 主の前に  
 C D7 G Am D7 G  
 賛美を 心から 今 主の前に ささげよう

Bm Am D7 Em C D7  
 イエスが 流された 血潮で きよめられ  
 Bm Am D7 G D7 G  
 天に 私の名が 記されている喜び

## 【イエス様ふれてください】

G D/F# C/E G/D  
 イエス様 ふれてください  
 C G/B F D7  
 み前に近づく わたしに  
 G D/F# C/E G/D  
 イエス様 ふれてください  
 C D7 G  
 その御手の中で

C D G C D Em  
 声を あげて あなたをたたえます  
 C D G Em Am D7 G  
 すべてのすべて あなたを 求め続けます

## 【こころ静かに】

G Bm C D7  
 こころ静かに 主の御言葉を待つ  
 G Bm C D7 G  
 こころ静かに 主の御言葉を待つ  
 G Bm C D7  
 麗しい 主の御言葉  
 G Bm C D7 G  
 慕わしい 主の 御言葉

# 5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り
3. 個人的な願いの祈り
4. とりなしの祈り

- ・コロナの完全終息のためにお祈りしましょう。
- ・愛知県の感染者が増えています。この夏の間、礼拝を守ることができますように。
- ・魂の救いと地域の伝道のため
- ・教会員の皆様がコロナから守られ、信仰生活が守られますように。マイナスがプラスになる!
- ・インターネット YouTube が用いられるように。
- ・家族・親族・友人知人・ご近所の方のために
- ・病いや困難と闘っている兄弟姉妹のため



## Footprints

### フットプリント(足跡)

ある夜私は夢をみた…で始まる、マーガレット・F・パワーズの詩は有名です。多くの人を励ましてきたあの詩にあるように、私たちが抱き上げてくださるイエス様の愛を感じながら歩んでゆきたいと思います。

瀬戸カルバリーチャペル

×Seto LIFE ART Studio  
 愛知県瀬戸市みずの坂5-64 0561-48-8899  
 牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



## 祈りの小径(こみち)

Number:019 瀬戸カルバリーチャペル  
 絵: Footprints of Jesus

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致しましょう。

## 2 今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ペテロの第一の手紙2章19～25節

2:19 もしだれかが、不当な苦しみを受けても、**神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。**

(よみせられる＝御心に適うこと・新共同訳)

2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、**なんの手柄になるのか。**しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。

2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、**御足の跡を踏み従うように、模範を残されたのである。**

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。**その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。**

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

## 3 黙想とところの投影の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

### 質問

Q1. 「神を仰ぐ」とはどのような態度と行動でしょうか。

Q2. もし、イエス様のように「ののしられ、苦しめられたら、あなたはどうしますか？」

Q3. 改めてイエス様が十字架にかかって成し遂げてくださったことは何でしょうか？

Q4. あなたの中に、けて救せない思い、復讐心、脅迫心がありますか？  
イエス様のように、正しい裁きをされる方にいっさいをゆだね、お祈りませんか。

## 4 みことばの解説

不当な苦しみ、理不尽な経験は、心に「深い傷やトラウマ」を残したり、また「怒り」が爆発する引き金にもなります。多かれ少なかれ、誰もがそのような体験をして生きているのではないのでしょうか。

使徒ペテロはここで、ただその苦痛を耐え忍びなさい(我慢しなさい)とは言っていません。「**神を仰いで+耐え忍びなさい**」と書きました。これは大きな違いです。神を仰ぐ…とは原文では「**良心を神に向ける**」という意味です。私たちはみな「良心」を頼りにしていますが、誹謗中傷や陰口、悪意ある行動、様々な社会問題の中で、人はその「良心」をもはや平静に保てなくなっているのではないのでしょうか。家族にもきつくなり、他者にも警戒心があって、「信頼できる関係」が失われつつある現代に、「良心を神に向ける」を実践できたら「最強のハート(心)」を手にしたと言えるでしょう。どんなマイナスもプラスにし、悪意さえも神の御業に変えてしまう御方につながっている人は、心(良心)の余裕を感じるのです。

神を仰ぐ…とは具体的には、**イエス様の足元**に目を注ぐことです。その傷のある足と足跡とは何を語っているのでしょうか。

- (1) **イエス様は何をされてもやり返さなかった**
- (2) **いっさいを父なる神様に委ねていた**
- (3) **その傷が「わたしたち」を癒してくださる…**

神学者ウィリアム・バークレーは、イエス様は以下のことを人生で受け入れなければならなかった…と書いています。①人々の侮辱と中傷 ②親しい者の裏切り ③人々の忘恩(イエス様を弁護する人はいなかった) ④人々の誤解…など。もし、イエス様の生き方が「模範」であるなら、どんなに辛い茨の道も、どんなに険しい坂道も、神を仰ぎ、十字架のイエス様を思い起こし、たましいの牧者にひたむきに従ってゆきましょう。

(注目: 1ペテロ2の21～24)